

令和7年度新SBIR制度加速事業(フェーズ2) フォローアップ調書の概要

施策名: スタートアップ総合支援プログラム(SBIR支援)
施策実施機関: 生物系特定産業技術研究支援センター
令和8年2月

スタートアップ総合支援プログラム（SBIR支援）の全体図

▶▶▶ ステージゲート	フェーズ0 (発想段階)	フェーズ1 (構想段階)	フェーズ2 (実用化段階)	▶▶▶ 事業化準備フェーズ
研究開発テーマ	農林水産業・食品産業における政策的・社会的な課題解決に資する研究開発テーマを設定			
対象	新たなビジネス創出を目指して革新的な研究開発に取り組む研究開発型スタートアップ等 (①原則設立15年以内の中小企業者(みなし大企業は除く)、②J-Startup 又はJ-Startup地域版の選定スタートアップ、 ③起業して研究開発成果の事業化を目指す研究者(応募は所属機関)、のいずれか)			研究開発型スタートアップ等 (中小企業者) 注: VC等からの出資要件有
期間	2年以内	2年以内	2年以内	1年以内
委託費	1,000万円以内/年度	1,000万円以内/年度	2,000万円以内/年度	VC等からの出資額と同額以内 (上限3,000万円/年度)
主な研究(取組)内容	革新的な技術シーズの創出	FS、PoCの実施	事業化に必要な研究開発 事業実施に向けた準備	PMFに向けた技術改良等の 取組
主な達成目標	革新的な技術シーズの確立 知財戦略の設定	技術的課題の明確化 有望な事業モデルの構築	法人設立を含む事業実施体制の確立 具体的な事業計画の策定 VC等からの出資の獲得	研究開発成果を基にした事業 の開始準備完了

経験豊富なプログラムマネージャー（PM）が、研究課題に応じて事業化をサポート

メンタリング

セミナー

マッチング

ピッチ

伴走支援
(メンタリング等
における支援例
(想定))

- 技術改良の助言
- 事業化を意識した技術的助言
- 知財戦略の助言 等

- 技術改良の助言
- FS、PoC、市場調査、マーケティング調査の支援
- 事業モデル構築支援 等

- 技術改良の助言
- 経営人材マッチング
- 知財調査、資金調達の支援
- 事業計画策定支援 等

- 技術改良の助言
- PMFに向けた取組の支援
- 販促戦略の策定、組織体制の構築等、事業開始準備の助言 等

将来のアグリ・フードテックを担う優秀な若手人材(スーパーアグリクリエータ(SAC))を発掘し、研究起業家としての能力向上を支援

用語説明: FS: feasibility studyの略で「実現可能性調査」 PoC: Proof of Conceptの略で「概念実証」 VC: venture capitalの略で「主に未上場の企業に投資を行う投資ファンド」
PMF: Product Market Fitの略で「顧客の課題を満足させる製品・サービス等を提供し、それが適切な市場に受け入れられている状態」
※プログラム内容については、年度ごと等で変更となる可能性がございます。実際の内容については、公募要領等でご確認ください。

プログラマナーによる事業化支援

伴走支援メニュー及びメンターチームについて

メニュー	内容
 メンタリング	支援対象者の課題やニーズに応じて、 メンターチーム を組成。ビジネスモデル・事業計画の策定、ニーズヒアリング等を支援する
 セミナー	月に1回程度、事業化に向けた基礎から応用まで、有識者によるノウハウ共有の場を提供するセミナーを開催（起業の基礎、資金調達方法、マーケティング等）
 企業マッチング	研究開発や製造、販売パートナー等、大企業等との連携構築を目的とし、経済界や農林水産業に取り組む企業を招き、支援対象者とのマッチング会を開催
 資金調達マッチング	投資家や金融機関を招き、支援対象者の資金調達機会を、年度毎に実施
 ピッチコンテスト	スタートアップが本事業で磨いたビジネスモデルや製品の構想を発表し、VCや投資家、金融機関からの資金調達及び認知度の向上を図る

その他、イベントへの出展も計画している

メンターチームの構成※

メンバー	役割	人材ソース
メンター	支援対象者の課題とニーズに応じ、事業化のための知見とノウハウを教授	PMのネットワークよりメンターをマッチング
経営人材候補1	ビジネスモデル策定や事業計画作成、資料作成を補助	BNVの「ILP※」より各支援対象に付き2名をアサイン
経営人材候補2		
支援補佐機関（支援窓口）	日程調整や協力機関との調整、議事録作成等の事務業務を担当する	支援補佐機関であるBNV、クニエから割当

ILPとは

BNVによる経営人材候補データベース。経営人材候補は事業戦略を描ける一定のスキルを持ち、アグリ・フード領域の変革に期待を持つ方で、将来リードする意志のある方を想定。支援対象者に対し事業化の道筋を体験し、その道を歩みだすきっかけにして頂く。

※ILP…Innovation Leaders Program

※対象者やフェーズ、課題に応じてチーム構成は変更される

評定
(自己評価)

A

<目標>

「指定補助金等の交付等に関する指針」に基づき、SBIR制度の趣旨を踏まえてPDCAサイクルを回しつつ効果的な事業運営を行う。

<自己評価の理由・根拠>

指定補助金等の交付等に関する指針に基づき、明確な目標設定に基づくフェーズ0～2及び事業化準備フェーズの段階的な支援に加え、プロジェクトマネージャー及びメンターから成るサポートチームによる伴走支援により事業化を意識した事業運営を実施した。

省庁間連携がしやすいよう、現在、連結型課題の公募期間を一般の課題より長期間として公募を実施しており、公募開始後には他のFAと共同での公募説明会を実施している。さらに、BRAINが中心となり、NEDO及びJSTとの協賛でFA連合フォーラム(支援済み連携課題2、支援中連携課題1、支援予定連携課題1の計4課題が参加)の共同開催を今年度末に予定しており、連携強化を図っている。

評定(自己評価)			
評価項目 1	評価項目 2	評価項目 3	評価項目 4
A	B	A	A

評定
(自己評価)

A

<目標>

「指定補助金等の交付等に関する指針」に基づき、革新的であると認められる研究課題を採択する。フェーズ2の目標達成に向け、事業化の見通しの立つ課題は早期事業実施体制の構築（VC出資、法人設立等）、そうでない課題については評価等でしっかりPDCAサイクルを回す。

<自己評価の理由・根拠>

BRIDGE予算対象として、令和7年度については、審査の結果、研究課題1件を採択し、概ね順調に研究開発を行い予算を執行している。

事業実施体制の構築のため、プロジェクトマネージャー、メンター等によるサポートチームより支援を行い、事業化計画の策定支援、アタッキングリスト（マッチングイベント参加企業のリスト化）による関連企業との個別マッチング支援、地方自治体との相談会の実施、知財・法務・出資獲得・海外展開のためのセミナーの開催（計7回）及びメンタリングにより事業化支援を実施しているところである。

さらに、令和8年3月はAgriFood SBIRピッチマッチングイベント及びFA連合フォーラムにおいて、協業者やVC等に向けた研究課題によるピッチを予定しており、出資獲得等の支援を実施しているところである。本プログラムを卒業した複数の連結課題もFA連合フォーラムに参加予定となっており、本プログラム卒業後も、必要な支援を実施しているところ。

評価項目2. 取組の効果

評定
(自己評価)

B

<目標>

事業化に向けた実用化段階として、FSやPoCを通して構築した事業モデルの実現に向けて、2年間をかけて、研究開発(技術改良等)、事業の実施に向けた体制整備(法人設立を含む)、具体的な事業計画の策定、ベンチャーキャピタル(VC)等からの資金調達(出資の獲得)等のフェーズ2の目標に到達する。

<自己評価の理由・根拠>

研究課題は、フェーズ2実施期間2年間の1年目であるが、法人は設立済みであり、また、研究開発も順調に進んでいる。

事業化実施体制については、常勤職員を新たに採用し、その体制を充実させており、資金調達に向け具体的に動き出している。

令和6年度に卒業した連結3課題については、3課題全てが法人設立を達成し、そのうち一部については、事業化を実現した。

評価項目2. 取組の効果

研究開発成果の例

- ▶研究課題名：土壌微生物データに基づく農地の分析・診断・改善策提案のワンストップサービスの事業化
- ▶研究代表者：サンリット・シードリングス株式会社
- ▶研究開発テーマ：農林水産業・食品産業の高い生産性と持続可能性の両立の実現

背景・目的

土壌環境改善による農業の生産力向上

- 解決すべき課題：生産環境の持続可能性向上およびコスト削減→持続可能な農業技術の確立
- 目指す方向性：土壌の「生物性」を診断し、改善するソリューションの提供
- 事業化による経済的効果：農地面積、生産人口の拡大による食料供給率の安定化、農業振興

目標

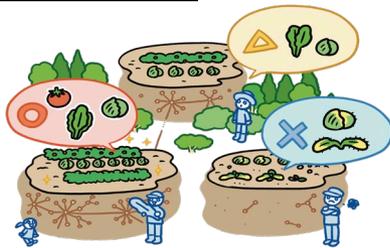
土壌微生物分析サービスの低価格化

- 目標①：土壌微生物分析サービスの低価格化を実現する
- 目標②：土壌微生物情報から資材効能を評価可能にする

研究内容

土壌微生物叢分析に基づく高度な栽培支援サービスの実現

土壌微生物分析

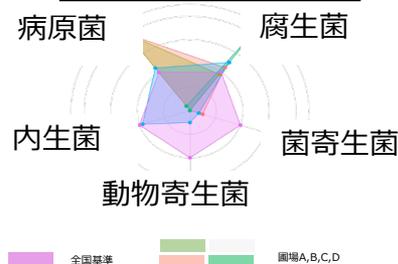


①農地ごとに異なる
土壌環境に注目



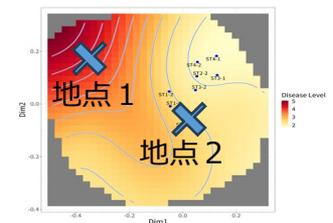
②土壌微生物をデータ化
し、ポテンシャル評価

微生物組成の特徴



③微生物の観点から
栽培環境を診断

圃場病害レベル



評定
(自己評価)

A

<目標>

幅広い分野の優れた外部有識者・専門家を審査・評価体系に取り入れ、客観的な基準やSBIRの趣旨に基づく公正な採択・評価を行う。プログラムマネージャー(PM)や省庁間の連携推進等を行う。

<自己評価の理由・根拠>

SBIRの趣旨を踏まえた上で、当プログラムは、革新的な技術シーズを創出するフェーズ0から、実用化準備フェーズまで、PDCAサイクルを回しつつ、切れ目ない支援を行う仕組みとしている。また、スタートアップ育成5か年計画に基づき、若手人材育成プログラム(スーパーアグリクリエーター発掘支援)を昨年度から新設し、昨年度8名、今年度も4名の若手人材の育成にあたっているところである。また、審査・評価については、幅広い分野の外部有識者18名からなる委員会を組織し、選考から評価まで公平性に配慮した適切な事業運営を行っている。連結型課題については、他FA機関のフェーズ1担当省庁の審査会や進捗報告会に協力しているほか、トピックの策定においては各省担当者や双方のPMの意見を踏まえ調整している。(令和7年度連結トピックの担当は、13課題(6省庁・機関)中5課題と多くを占める。)

評価項目4.「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施

評定
(自己評価)

A

<目標>

「指定補助金等の交付等に関する指針」に基づき、プログラムマネージャーの設定、公募の予見可能性及び利便性の向上、申請手続きの簡素化、執行の柔軟化、普及活動等に適切に取り組む。

<自己評価の理由・根拠>

公募については、令和7年度事業は令和7年3～4月に実施し、令和8年度事業も公募予告を行った上で、十分な公募期間を設け(一般の課題の公募期間は1か月。連結課題の公募期間はそれよりも長く)るとともに、各種SNSでの広報活動、公募説明会の開催、説明動画やQ&Aの掲載など公募の予見可能性や利便性の向上に対して積極的な対応を行っている。また、公募説明会は、概算要求に基づく応募前説明会、個別相談を多数行い、さらに、連結型課題を想定し、公募開始後には他のFAと共同での公募説明会を開催した。

全国13か所のエコシステム拠点都市のうち8か所に直接訪問し、スタートアップ総合支援プログラム及び連結課題の普及活動に取り組み、また、AgriFood SBIRピッチマッチングイベントに加え、エコシステム拠点都市との合同イベント(熊本市、仙台市)及びNEDO、JSTとの合同で開催予定のFA連合フォーラムにおいても、普及活動を実施した(一部予定)。